感染症発生動向調査　病原体検出状況

栃木県保健環境センター及び宇都宮市衛生環境試験所では、感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、県内の医療機関において患者から採取された検査材料について、病原体の検出を行っています。

2023 年 1 月から 12 月の病原体検出状況について、次のとおり報告します。

※本報告では、確定診断に至っていない疑い症例も含んでいます。

１　栃木県保健環境センターにおける病原体検査実施状況について

(1) 搬入状況

月別検体搬入状況を表 1-1 に示しました。

検体数は 261 件で、内訳は、全数把握疾病が 174 件（66.7%）、病原体定点対象疾病が 86 件（33.0%）、その他が 1 件(0.4%)でした。全数把握疾病 174 件のうち、三類感染症が 32 件、四類感染症が 7 件、五類感染症が 135 件となっています。

疾病別の内訳は、急性脳炎が 60 件(23.0%)、腸管出血性大腸菌（以下「EHEC」）感染症が 30 件（11.5%）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（以下「CRE」）感染症 24 件（9.2%）が搬入されました。また、その他細菌性赤痢、腸チフス、E 型肝炎、デング熱、レジオネラ症、急性弛緩性麻痺、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、風しん、麻しんの検体が搬入されました。病原体定点対象疾病、その他については表 1-1 のとおり。

(2) 検査方法等

国立感染症研究所の病原体検出マニュアル及び厚生労働省通知の方法などを参考に検査を実施しました。

(3) 結果

月別病原体検出状況を表 2-1 に、疾病別病原体検出状況を表 3-1 に示しました。

ア　全数把握疾病

・細菌性赤痢患者由来検体からは、*Sigella flexneri* 3a が 1 株検出されました。

・EHEC 感染症患者由来検体からは、EHEC が 29 株（026：7 株、0103:1 株、0111:1 株、0121：1 株、0148：1 株、0157：18 株）検出されました。

・腸チフス患者由来検体からは、*Salmonella Typhi* が 1 株検出されました。

・E 型肝炎患者由来検体からは、E 型肝炎ウイルス遺伝子型 3 が 2 株検出されました。

・レジオネラ症患者由来検体からは、*Legionella pneumophila* 血清群 1 が 1 株検出されました。

・CRE 感染症患者由来検体からは、カルバペネマーゼ非産生株が 20 株、カルバペネマーゼ産生株が 2 株検出されました。

・急性弛緩性麻痺患者由来検体からは、コクサッキーウイルスA群６型が１件検出されました。
・急性脳炎患者由来検体からは、ヒトパレコウイルス３型が11件、エンテロウイルスA71が１件、コクサッキーウイルスA群２型が７件、ヒトライノウイルス遺伝子群A（HRV-A22)が１件、ヒトライノウイルス遺伝子群B（HRV-B27)が１件、ヒトライノウイルス遺伝子群 C（HRV-C8）が 2 件、ヒトライノウイルス遺伝子群 C（HRV-C15)が１件、インフルエンザウイルスAH1pdm09亜型が１件検出されました。
・劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者検体からは、A群溶血性レンサ球菌TB3264型が１株、A群溶血性レンサ球菌T1型が１株、A群溶血性レンサ球菌T型別不能が２株、B群溶血性レンサ球菌Ⅲ型が１株、G群溶血性レンサ球菌が１株検出されました。
・侵襲性インフルエンザ菌感染症患者由来検体からは、インフルエンザ菌莢膜型別不能２株が検出されました。
・侵襲性肺炎球菌感染症患者由来検体からは、肺炎球菌血清型 6B が 1 株、肺炎球菌血清型22Fが１株、肺炎球菌血清型24Bが１株、肺炎球菌血清型35Bが１株検出されました。

イ　定点把握疾病
・手足口病患者由来検体からは、エンテロウイルスA71が１件検出されました。
・ヘルパンギーナ患者由来検体からは、コクサッキーウイルスA群２型が１件、コクサッキーウイルスA群４型が１件、ヒトライノウイルス遺伝子群A（HRV-A22）が１件検出されました。
・インフルエンザ患者由来検体からは、インフルエンザウイルスA型（型別不明）が１件、インフルエンザウイルスAH1pdm09亜型が14件、インフルエンザウイルスAH3亜型が20件検出されました。

ウ　疑似症
・疑似症（小児の原因不明の急性肝炎を診断された症例）検体からは、ヒトパレコウイルス３型が１件、エンテロウイルスA71が１件検出されました。

エ　その他
・パレコウイルス感染症患者由来検体からは、ヒトパレコウイルス３型が１件検出されました。

２　宇都宮市衛生環境試験所における病原体検査実施状況について

(1) 検査状況

月別疾患別検査状況を表 1-2 に示しました。本報告では、確定診断に至っていない疑い病名についても、確定診断名に含めて分類しました。

検体数は57件でした。内訳は、全数把握疾患が31件（三類：3件、四類：12件、五類：16件）、病原体定点対象疾患が25件、その他が１件でした。

搬入検体の疾患別の内訳は、インフルエンザが 21 件（36.8%）と最も多い状況でした。次いで、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症が 8 件（14.0%）、つつが虫病が 5 件（8.8%）、日本紅斑熱（疑いを含む）が 5 件（8.8%）、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）が 4 件（7.0%）、疑似症が 4 件（7.0%）、腸管出血性大腸菌感染症が 3 件（5.3%）、麻しんが 3 件（5.3%）、E 型肝炎が 1 件（1.8%）、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）が 1 件（1.8%）、侵襲性インフルエンザ菌感染症が 1 件（1.8%）、多剤耐性カンジダ・アウリス感染症が 1 件（1.8%）搬入されました。

(2) 検査方法等

国立感染症研究所の病原体検出マニュアル及び厚生労働省通知の方法などを参考に検査を実施しました。なお、日本紅斑熱及びつつが虫病（同一検体）、多剤耐性カンジダ・アウリス感染症は国立感染症研究所へ検査依頼しました。

(3) 結果

月別病原体検出状況を表 2-2 に示しました。また、疾患別病原体検出状況を表 3-2 に示しました。

ア　全数把握疾患

・EHEC 感染症患者由来検体からは、EHEC 3 株（O84：1 株、O8：1 株、O148：1 株）が検出されました。

・CRE 感染症患者由来検体からは、*Enterobacter cloacae* が 1 株検出され、IMP 型 Metallo-β-lactamase 産生株でした。また、*Escherichia coli* が 2 株、*Klebsiella pneumoniae ssp pneumoniae 2* が 1 株、*Klebsiella aerogenes* が 4 株検出されましたが主要なカルバペネマーゼ遺伝子（IMP 型、NDM 型、KPC 型及び OXA-48 型）は検出されませんでした。

・侵襲性インフルエンザ菌感染症由来検体からは、インフルエンザ菌莢膜型別不能が 1 株検出されました。

イ　定点把握疾患

・インフルエンザ患者由来検体からは、インフルエンザウイルス 21 件が検出されました。内訳は、インフルエンザウイルス AH3 亜型が 20 件、インフルエンザウイルス B 型（ビクトリア系統）が 1 件検出されました。